

■水子貝塚公園は、昭和44 年（1969）に国史跡に指定されました。

水子貝塚は昭和12 年（1937）発見以来、数回の発掘調査によって小規模な貝塚が環状（かんじょう）に分布する縄文時代のムラの跡であることが判明し、その貴重さから昭和44 年（1969）に国史跡に指定されました。

指定地の面積は約39,346 m²（東京ドームの0.84 倍）です。翌年から20 年の歳月をかけ用地を取得し、平成3 年(1991)から公園整備を開始しました。平成6 年(1994)に「水子貝塚公園」としてオープンし、「縄文ふれあい広場」として親しまれています。

平成7年（1995）には国土交通省から「手づくり郷土賞」を受賞し、平成19年（2007）には「日本の歴史公園100選」にも選ばれました。

■縄文海進と水子貝塚

約9,000年前から温暖化がはじまり、現在よりも平均気温が1～2度高くなりました。その結果、北極や南極の氷が溶け、しだいに海水面が上昇し、ピーク時の6,500～6,000年前には5mほど現在よりも高くなりました。この現象を縄文海進といいます。そのため、現在よりも深い谷だった荒川の流れて海水が富士見市を含め内陸部まで入り込み「古入間湾」を形成しました。



縄文時代には、富士見市は武蔵野台地と荒川低地が広がり、低地は海でした。



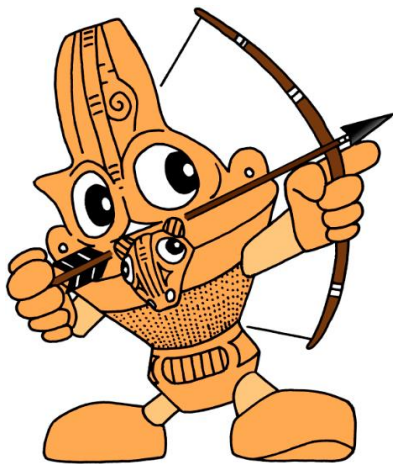
水子貝塚は海の幸を求めて集まった人々が残した貝塚のひとつです。

竪穴式住居跡からは貝塚が発見され、最も多いのはヤマトシジミ、次にマガキ、ハマグリ、アサリなどの貝殻です。

15号住居の貝塚の下には、30代の女性人骨と若い雄犬の骨が埋葬されていました。展示館には住居跡・貝塚・人骨の出土状態をそのままに再現しています。

■水子貝塚公園で、様々な学習や体験ができる。

水子貝塚公園には資料館・展示館の他、約6,000年～5,500年前の関東平野・奥東京湾の地図などのある説明広場、様々な学習や体験のできる学習広場、展望台、縄文時代の暮らしを再現している復元竪穴住居、貝塚のあった場所を示す貝塚表示、当時の森を復元した縄文の森などがあります。



縄文神ムサビー

※水子貝塚資料館のイベントが、ふじみ広報で毎月掲載されています。

※水子貝塚資料館には「愛称ムササビ土器」が展示されています。県指定有形文化財です。
(羽沢遺跡出土の縄文土器)

■水子貝塚星空シアター

水子貝塚星空シアターは、平成8 年（1996）から毎年開催しています。公園内で涼み、大型スクリーンで映画を観ながら楽しいひと時を過ごしたり、その他の行事や模擬店も出て、多くの市民に親しまれています。

※来園者 平成24年 3,000人

■新春縄文マラソン大会

水子貝塚公園をスタート・ゴール地点とする「新春縄文マラソン大会」は、富士見市体育協会主催で毎年1 月の成人の日に行われています。

同時に「縄文5 種競技」が開催され、やり投げ・弓矢・火おこし・宝さがし・丸太ひきなどが行われます。

当大会の第1回は昭和44 年（1969）「ロード・レース」として開催され、その後「富士見ロード・レース大会」、そして現在の「新春縄文マラソン大会」と名称を変え、平成24 年（2012）1 月で42 回（参加者916 名）を数えます。

記載日：2013/11/7

この内容は、「郷土富士見検定問題集」「郷土富士見検定問題集 第二集」から抜粋し、記載しています。また補足資料として図（資料館内の掲示説明の切抜き）を利用させて頂いております。

↓↓↓ 次の資料は、水子貝塚資料館の好意により開示しています。↓↓↓

史跡

水子貝塚

富士見市立水子貝塚資料館

水子貝塚とは

現在の富士見市には海はありませんが、今から約5500年前、縄文時代前期と呼ばれる時代には、現在の沖積地(富士見市東部の荒川低地)に海が入り込んでいました。その海の幸を求めて台地上(富士見市西部の武蔵野台地)には人々が集まり、ムラをつくりました。そのムラが水子貝塚です。

水子貝塚は昭和12年(1937)に発見され、その後数回の発掘調査が行われています。その結果、貝が竪穴住居跡に捨てられて地点貝塚(小貝塚)を形成し、約60ヶ所の地点貝塚が直径約160mの環状に分布する集落跡であることが明らかになりました。

昭和44年(1969)には国の史跡に指定され、遺跡の保存と史跡公園化を目的とした土地の公有化と整備を行い、25年後の平成6年(1994)に、『縄文ふれあい広場 水子貝塚公園』として開園しました。



水子貝塚(上空から)▶

水子貝塚周辺の貝塚

富士見市では、旧石器時代から近世までの遺跡が60ヶ所確認されています。そのうち15遺跡で貝塚が発見されています。いずれも縄文時代早期後半～前期(今から約7000～5500年前)の時期に形成された貝塚です。

水子貝塚は富士見市を代表する大規模な貝塚(集落跡)ですが、水子貝塚より少し前には、打越遺跡(現在のみずほ台小学校付近。水子貝塚の約1.5kmほど西)に貝塚をとまなう大規模な集落がつくられていました。水子貝塚と打越遺跡は、古入間湾西岸の拠点的な集落として栄え、打越遺跡から水子貝塚に集落が移ってきたと考えられています。

「水子」という地名

「水子」いう地名は、「水のあるところ。水がわきでるところ。」という意味があるようです。実際、富士見市の水子地区には多くのわき水があり、小さな川も流れています。豊かな水は豊かな緑を作り出しました。昔からこの地域に人々が生活していたのは、「わき水」と「緑」という恵まれた自然環境があったからです。

縄文海進

地球の気候は、温暖な時期^{むんたん}と寒冷な時期^{かんれい}を繰り返しています。水子貝塚^{みづこ}に人々が住んでいた時期は、現在よりも温暖な時期だったので、北極と南極、氷河の氷が溶け、現在よりも海水が陸に入っていました。これを『縄文海進^{かいしん}』といい、富士見市の貝塚はこの時につくられました。海は現在の荒川に沿って入り込み、水子貝塚の北側には海が広がっていました。



▲約5500年前の想定図（うすい青色の部分まで海が来ていた）（↓西方に打越遺跡）

貝塚とは

貝塚からは、貝の他に魚や獣の骨、炭化した木の実の殻、こわれた土器や石器、身につけていたアクセサリーなど、当時の人々の生活がうかがえるさまざまなものが発見されます。貝塚というのは、貝殻だけを捨てた場所では



貝塚中から出土した土器▶



▲人骨が出土した様子



▲柱穴から出土したオス犬の様子

調査中の第15号住居跡。竪穴住居に積もった貝の約1/2が取り除かれた状態。この住居は、深さ約70cm、貝の総量は約4.4トンもあった。

なかったのです。貝塚が縄文人のゴミ捨て場といわれる理由です。

しかし第15号住居跡からは、手足を折り曲げた姿で埋葬(屈葬)された30歳代の女性の人骨と、そのすぐ近くの柱穴からは埋葬された若いオス犬の骨が見つっています。貝殻などと一緒に人や犬を埋葬したのは、貝などの自然の恵みに感謝し、かつ人や犬、貝などの再生を願ってのことだったのでしょうか。自然と共に生き、自然のサイクルに自らをとけ込ませるようにして生きた縄文人にとって、貝塚とは単なるゴミ捨て場(はんえい)だったのではなく、縄文人の世界観を反映している場所なのかもしれません。



貝塚の中からは……

水子貝塚の貝は、大部分がヤマトシジミです。ヤマトシジミは川が海に流れ込む所(海水と淡水が混じる「汽水域」)で採れました。他にハイガイ、ハマグリ、サルボウは干潟や砂浜で、カキは岩場、川ではオオタニシ、カワナナなどを採っていました。

貝殻には、日輪という木の年輪のようなものがあります。日輪や、貝塚の貝と土の堆積状態を細かく分析すると、どんな種類の貝をいつ頃に採っていたのかがわかります。その結果、春～初夏にかけて多く採っていたことがわかりました。

貝以外では、クロダイなどの魚やイノシシ、シカなどの獣の骨、クルミ、クリなどの炭化した木の実の殻などがでてきます。



貝塚は、他の遺跡では残りにくい骨や木の実の殻などが、貝殻のカルシウムに守られて残っている情報の宝庫(タイムカプセル)なのです。

◀縄文人の生活カレンダー

木の实	クリ オニグルミ クヌギ
動物	イノシシ タヌキ シカ ノウサギ
鳥	タンチョウヅル
魚	カツオ クロダイ コイ コチ トビエイ スズキ アオザメ アシハラカニ
貝	ヤマトシジミ マガキ ハマグリ オオノガイ アカガイ オオタニシ シオフキ サルボウ ハイガイ カワナナ

水子貝塚から見つかった当時の人々が食べていたもの

水子貝塚の調査と研究の歴史

水子貝塚では、昭和13年(1938)から6回の発掘調査が行われています。しかしそれ以前にも存在は知られており、畑には貝がたくさん散っていたようです。

- 大正5年(1916)
安部立郎氏により「水子 大応寺前 貝畑」に遺跡が存在することが報告された。
- 昭和12年(1937)
酒詰仲男氏がこの地を訪れ、水子貝塚を発見。
- 昭和13年(1938)12月
東京考古学会が発掘調査を実施。
貝塚2ヶ所が調査された。
- 昭和14年(1939)10月
東京大学人類学教室の発掘調査。
- 昭和42年(1967) 3回目の発掘調査。
1ヶ所の貝塚を発掘。
- 昭和52・53年(1977・1978)
第4回目の調査。航空測量と貝塚分布調査。
- 昭和59年(1984)
5回目の発掘調査。トレンチを入れて遺構分布確認調査。
- 平成3～5年(1991～1993)
公園整備事業に関わり、展示館建設予定地と貝塚2ヶ所の発掘調査を実施。埋葬された人骨と犬骨等が発見された。
- 平成6年(1994)
「水子貝塚公園」として開園。



▲昭和42年の発掘調査



▲畑に散る貝



▲姿をあらわした貝塚



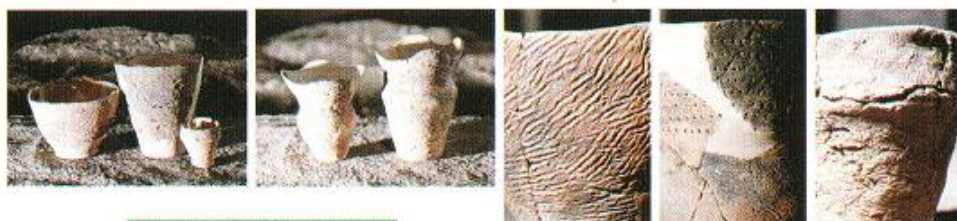
▲発掘された住居跡の実測(平成5年)

出土した土器・石器

水子貝塚から出土した土器は「黒浜式」と呼ばれ、植物の繊維を撚り合わせてつくった縄を、土器表面に転がして縄目の模様(縄文)をつけたり、篠竹を割った道具で線(沈線)を描く土器です。

縄文土器は、地域や時代の特徴から多くの型式に分類されます。江坂輝弥氏(1919～)は、水子貝塚から昭和14年に発掘された土器を「諸磯式」最古段階の代表例として考え、「水子式」という名称を提唱しました。現在では、「水子式」の名称は一般に用いられませんが、江坂氏の研究は諸磯式成立期の様相に迫ったものとして再評価されています。土器は基本的に煮炊きの道具で、火を受けて上半分が焼けて黒く、下半分が焼けて赤くなっています。土器を用いた煮炊きによって、堅い木の実やすじ肉等が食べられるようになりました。

石器は、狩猟用具、採集用具、伐採、木工具、食物加工具などに使われたものです。石器にはそれぞれの用途に合う石材を使い分け、近くの河原、荒川上流、遠く八ヶ岳山麓などから入手しています。硬い石の目を的確に読み、割っていく観察力と経験、時間をかけ形を整え、丁寧に磨いて仕上げていきます。また黒曜石のようなガラス質の石は、敲き割った部分に鋭い刃ができます。黒曜石でつくった道具は、獣を仕留めるための矢の鏃や、動物を解体するのにつかわれました。



▲土器につけられた模様
(左から縄目、半分に割った竹で描いた沈線、貝で模様がつけられている。)



水子貝塚から出土した土器
(器形がくびれ、縁が波状なものが多い)

▲出土した石器▶
(上…軽石製品、右…打製石斧・磨製石斧)

水子貝塚公園案内図



▲貝塚表示

- ① 正門
- ② 西門
- ③ 南門
- ④ 休憩ベンチ
- ⑤ 案内板
- ⑥ 屋外トイレ
- ⑦ 復元住居 (2号住居跡)
- ⑧ 復元住居 (15号住居跡)
- ⑨ 復元住居
- ⑩ 復元住居骨組
- ⑪ 池

みずほ川



※指定地面積 (39,346.85㎡)
※園路周長582m

説明広場▶



難波田城公園・資料館
貝塚公園入口バス停
間の坂交差点、志木駅方面▶



▲水子貝塚資料館



▲水子貝塚展示館



▲学遊広場



▲観望台

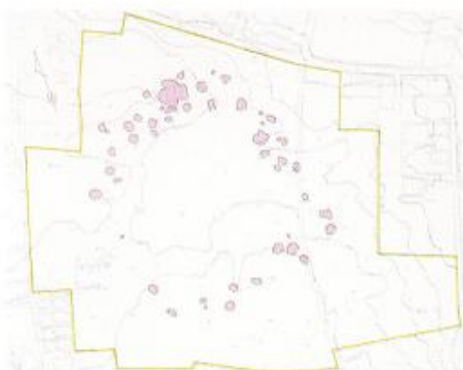


▲復元住居

ドーナツ型にめぐる家

水子貝塚では、約60ヶ所の地点貝塚(小貝塚)が確認されています。地点貝塚は、竪穴住居跡に貝が捨てられて形成されたものですから、最低60軒の家があったということになります。また貝が捨てられていない竪穴住居跡などもあるでしょうから、水子貝塚全体では100軒ぐらいの家があったと推定されています。

確認された地点貝塚は、ドーナツ型(環状)に分布しており、当時の家がドーナツ型に配置されていたことがわかります。中央部は広場として、共同作業や祭りに使われたのでしょうか。ただ全てが同時に建っていたわけではありません。一時期に5軒~10軒の家が建っていたと考えられています。広場を中心に家の新築、建替えを繰り返すうちに、結果的にドーナツ型になったということなのです。



▲地点貝塚の分布



▲貝塚が環状にめぐる様子(白い部分が貝塚表示)

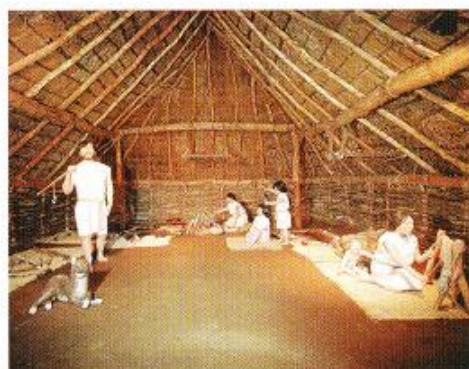
竪穴住居に入ってみたら



▲発掘調査中の竪穴住居（第15号住居）
掘った竪穴の状態がよくわかる。
壁際の溝が3本あるのは、この家を
拡張したからです。



▲竪穴住居の骨組み復元展示



◀竪穴住居内の様子(第15号住居内展示)

水子貝塚公園では、5棟の竪穴住居と、2棟の竪穴住居の骨組みを復元しています。

竪穴住居は、地面に穴(竪穴)を掘り、柱穴を掘り、柱を据えて基礎を組み、カヤで屋根を葺いています。掘った土は竪穴の周りに積んで、水や風を防ぎました。家の中には、炉がつくられていましたが、部屋を仕切るようなものはなかったようです。竪穴住居は、夏は涼しく、冬は暖かい、結構住みやすい家だったのです。

竪穴住居の大きさはまちまちですが、第15号住居は、当時の家としてはやや大きく、7.7m×6.5mの広さ(約30畳分)を持っています。

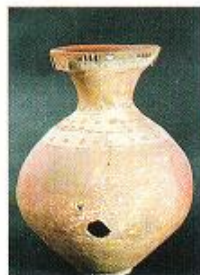
竪穴住居をつくるのは大変な作業です。ムウの人たちがみんなで、つくったのでしょう。



▲竪穴住居外観
(第2号住居跡)

水子貝塚資料館

水子貝塚資料館では、富士見市内の遺跡から出土した遺物を展示しています。



④ 弥生時代展示



④ 弥生時代展示



⑥ 奈良・平安時代展示

① 旧石器時代展示

⑦ 近世展示

⑧ 身障者用トイレ

⑨ 女性用トイレ

⑩ 男性トイレ



④ 弥生時代展示



③ 県指定有形文化財
羽沢遺跡出土縄文土器
(愛称ムササビ土器)



② 縄文時代早期 打越式土器

水子貝塚展示館

水子貝塚展示館では、水子貝塚から発掘された遺物を展示し、発掘調査の様子を再現しています。



9 発掘調査
再現展示

5 スクリーン

7 地形模型

季節ごとに表情をかえる縄文の森



① ヤマザクラ

落葉高木。花は葉と同時に咲き、色は白から微紅色で五弁。果実は、5～6月に熟す。日本の国花。

② クヌギ

落葉高木。武蔵野の雑木林の主役。実は丸く、汁は草木染めの染料になる。ドングリとはクヌギの実を指し球形。

③ コナラ

落葉高木。武蔵野の雑木林の主役。若葉と同時に黄褐色の穂状の花をつける。実は長楕円形のドングリ。



④ ウツギ

落葉低木。枝は、成長すると随が失われ中空となるので空木（うつぎ）という。枝先に白・赤の花が咲く。

⑤ シモツケ

落葉低木。日当たりのよい草地等に生える。花は淡紅色から濃紅色で、枝先に散開するように咲く。

⑥ エゴノキ

落葉高木。雑木林に生える。清楚な白の花が下向きに咲く。実は食用だが、果皮は魚を採る毒流しになる。



⑦ オニグルミ

落葉高木。日本の固有種。大きいものは高さ30m、幹の直径が1m以上になる。長い穂状の花は5～6月に咲く。秋に実をつけ食用となる。エゴノキ同様、果皮は草木染めの染料や、魚を採る毒流しの材料となる。実だけでなく、若芽は湯がけば食べられる。

⑧ 秋の風景

⑨ ヤマグリ

落葉高木。ヤマグリの実は園芸せずに生食することができ、甘花房は棒状で垂れる。縄文時代木は堅く腐りにくい建築材とし

水子貝塚公園では、当時のムラを囲んでいた木々を中心に、縄文時代の森を復元しています。季節ごとに様々な表情を見せる森は、春・夏には花を咲かせ、秋に木の実を实らせます。木は道具や建築材に使われ、木の実が縄文人の大切な食料でした。



④ガマズミ

落葉低木。山地に生える。春に白い花が枝先に散房状に咲く。秋には甘酸っぱい赤い実（食用）になる。

⑤ケヤキ

落葉高木。山野に自生する。公園樹、街路樹としてよく用いられる。葉は卵形。花は薄い黄緑色。

⑥初夏の風景



⑩ムラサキシキブ

落葉低木。秋に紫色に熟する美しい実をつける。名の由来は、いわずと知れた平安時代の才媛「紫式部」。

⑪カブトムシ

カブトムシもクワガタも、クヌギやコナラの樹液をめざしてよく集まってくる。

⑫秋の風景



⑮冬の風景

種より実が小さい。アク抜きが強く、濃厚な味がする。には、実は主要な食料として、て多用された。

⑰冬の風景

常緑小高木。山地に生え、ツバキと共に、冬から早春の代表的な花木。自生種の花は白で、花弁が一枚一枚散るのでツバキと区分できる。種子からは油がとれる。

⑱サザンカ

交通案内図



(交通のご案内)

●電車

東武東上線みずほ台駅東口下車
→徒歩15分(約1.5km)

●バス(約15分)

東武東上線志木駅東口下車→
「下南畑」「富士見高校循環」→貝
塚公園入口下車(徒歩2分)

●自動車

関越自動車道所沢I.C.→国道463
号線浦和方面約6km→岡の坂交差
点左折→約2分→水子貝塚公園

水子貝塚公園利用案内

開園時間 午前9時～午後6時
(4月1日～9月30日)
午前9時～午後5時
(10月1日～3月31日)
休園日 なし
入園料 無料

水子貝塚資料館 水子貝塚展示館 利用案内

開館時間 午前9時～午後5時
休館日 月曜日(祝日を除く)
祝日の翌日・年末年始
入館料 無料

※団体見学については、事前にご相談ください

富士見市立水子貝塚資料館

〒354-0011 富士見市大字水子2003-1 TEL 049-251-9686・255-5587 FAX 049-255-5596

◆表紙の絵はイメージです

2001年発行 編集 富士見市立水子貝塚資料館

印刷 株式会社 ミュゼ

♻ 再生紙100%使用